

## 『しごとと能力研究』投稿規程

『しごとと能力研究』編集委員会

### 1. 投稿資格

原則として、原稿の著者は本学会の会員とする。共著の場合は少なくとも一人は会員でなくてはならない。ただし、編集委員会が特に認めた場合は、この限りではない。

### 2. 原稿のフォーマット

原稿は『しごとと能力研究』サンプルフォーマットに従って、Microsoft Word又はLaTeXにて作成すること。

### 3. 言語

投稿原稿は日本語または英語で書かれていること。

### 4. 文字数

和文の場合 20,000 字(400 字詰め原稿用紙 50 枚相当)以内、英文の場合は 8,000Words 以内を原則とする。文字数には本文、注釈・参考文献、図表をすべて含める。

### 5. 書式

- (1) 原稿はA4サイズ、横書きで作成すること。
- (2) フォントはMS明朝、英語・数字はTimes New Romanとする。

### 6. 図表

図・表も本文中にレイアウトし、係る番号と標題をつける。

### 7. 表紙

#### (1) 和文の場合

1 枚目は表紙とし、以下の情報を含める。

- A. 題名・著者名・著者所属機関の順に日本語・英語の両方で記載する。
- B. 邦文要旨 (200字以内)・英文要旨(200Words 以内)
- C. 邦文キーワード (5つまで)・英文キーワード(5つまで)
- D. 論文の文字数

#### (2) 英文の場合

1 枚目は表紙とし、以下の情報を含める。

- A. 題名・著者名・著者所属機関の順に英語で記載する。
- B. 英文Abstract (100Words 以内)
- C. 英文キーワード(5つまで)
- D. 論文の文字数

### 8. 参考文献

- (1) 本文中での引用は、「著者(年)」で記述する。括弧内では「(著者 年)」で記述し、複数の場合は「(著者 年; 著者 年)」のようにセミコロンで区切る。
- (2) 引用文献は論文末尾に一括して、日本語文献、外国語文献の順で区別した上で、日本語文献については50音順、外国語文献については第一著者名のアルファベット順に示す。

### [記載例]

赤岡功・日置弘一郎(2005)『経営戦略と組織間連携の構図』中央経済社。

桑田耕太郎(2004)「組織均衡とマイクロ組織論-組織均衡のなかの従業員」二村敏子(編)

『現代マイクロ組織論-その発展と課題』有斐閣ブックス,19-37ページ。

二神恭一(1994)「欧州統合と労働者参加」『組織科学』第27巻第3号,49-58ページ。

Bolton, P. and M. Dewatripont (1994), "The firm as a communication network," *The Quarterly Journal of Economics*, 109(4), 809-839.

Laffont, J. J. and D. Martimort (2002), *The theory of incentives: the principal-agent model*. Princeton university press.

Marshall, A. and W. Meckling (1962), "Predictability of the costs, time, and success of development," in R. Nelson ed., *The rate and direction of inventive activity: Economic and social factors*, Princeton University Press, 61-475.

### 9. 著作権

投稿原稿の著作権については、別に定める「しごとと能力研究学会」著作権規程に準ずる。

10. 投稿方法

投稿を希望するものは、投稿原稿のWordファイル（又はLatex ファイル）とPDFファイル  
を下記の事務局宛に電子メールに添付して送付すること。また、本人以外の第三者からの  
投稿、また、査読に関する事項の照会は受け付けないものとする。

しごと能力研究学会事務局：[tow0033@yahoo.co.jp](mailto:tow0033@yahoo.co.jp)

11. 抜刷

希望者には掲載論文の抜刷を配布する。10部までの学会の負担とし、それ以上は実費を  
請求する。

12. 規程の改廃

この規程の改廃は、編集委員会の議を経て理事会が行う。

(以上)